

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091800195
法人名	社会福祉法人 親孝会
事業所名	グループホーム 太陽の郷
所在地	福岡県飯塚市鯉田字古堤516番地17
自己評価作成日	平成26年3月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成26年3月24日	評価結果確定日	平成26年8月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社会福祉法人親孝会は平成6年4月に飯塚市下三緒に特別養護老人ホーム太陽の郷を開設しました。その後、ショートステイ・ケアハウス・デイサービス・居宅支援事業所等を開設し運営しています。平成21年5月より、飯塚市鯉田にて介護付有料老人ホーム・グループホームを開設しました。当施設のスタッフのみでなく、法人全体で利用者の皆様(ご家族)を支える体制を整えています。地域密着の精神を重視して利用者個人個人に合わせた介護を実践しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の各団体の長が集まる「長さん会議」に毎月参加し、地域課題の掘り起しやまちづくりに関わりながら、地域貢献や繋がりを大切にしている。地域全体で、積極的に問題解決に取り組もうとする関係が築かれており、管理者をはじめ職員にとって心強い支えとなっており、利用者の社会参加や行動範囲を広げるなど成果としても表れている。また、センター方式も活用しながら、個別ケアの充実を念頭におき、様々な視点からの情報収集や個々のニーズを捉えたサービスの提供に努めている。毎年、毎年、課題への対応や新たな取り組みを積み重ねながら、法人全体としての組織の活性化に向けた取り組みがうかがえ、今後も入居者本位の暮らしの継続を支援しながら、地域の拠点としての活動展開が大いに期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念の基、グループホーム独自の運営方針を作成しており、職員間で共有し実践につなげている。	法人理念である愛情・親切・信頼のまごころ介護を基本とし、事業所独自に地域密着型の意義を踏まえた運営方針を掲げている。リビングや事務所に掲示し理念の浸透を図るとともに、会議等にて振り返る機会も設けている。特に職員採用時研修では、周知、理解に取り組んでいる。職員は、日々のケアの中で、まごころ介護の追求に努め、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者が、地区の各長が集まる長さん会議に参加して地域の情報を得ている。又、地域の行事には可能な限り参加している。	月に1回、自治会長会や公民館連絡協議会、青少年健全育成会、社会福祉協議会、PTA、消防団、子供山笠振興会等、各22団体の長が集まる「長さん会議」に管理者は参加し、地域課題の掘り起しやまちづくりに参画している。様々な情報の場となり、地域行事の参加依頼や公民館からの依頼によりサークル活動の発表を事業所で行ったりと、地域との相互の協力を結び付けている。また、事業所では、協力医療機関の医師による認知症講座や実習生の受け入れなども定期的に行っており、積極的な交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	潁田病院医師による認知症講座やオレンジリングの講習を当事業所で開催し、地域の方々にも参加して頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、定期的で開催している。当事業所の取り組み状況や利用実績等を報告し、ご意見やご指摘を頂いている。	2ヶ月に1回、開催されている運営推進会議には、地区自治会長、民生委員、市職員、消防団等からの参加がある。以前、会議開催時に事業所内でのレクリエーションに参加してもらい入居者との交流を深めたことにより、有意義な助言や要望を得ることにつながっている。また、出された助言や要望に関して事業所全体で迅速に対応している。開催状況報告書として、市のウェブサイトにて、誰もが観覧できるようになっており透明性を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	飯塚市地域密着型サービス連絡協議会に加入しており、行政との連絡を密にとっている。又、介護相談員の訪問を受け入れている。	随時、必要に応じて、市担当者へ相談や情報提供などの連絡を密にとり良好な関係が築かれている。毎月1回開催される飯塚市地域密着型サービス連絡協議会では、行政や他事業所と研修や広報を通じて積極的に関わり、連携構築に努めている。毎月1回、介護相談員の訪問を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない取り組みを実施している。玄関は併設の介護付有料老人ホームから出入りしている。介護付有料老人ホームの玄関は施錠していない。	身体拘束をしないケアについて、毎年1回、開催される内部研修には、職員ほぼ全員が参加している。身体拘束の弊害を理解し、言葉かけや対応も含め職員間で共通の意識を持ち、身体拘束をしないケアを徹底している。また、環境の整備も含め、リスクマネジメントとのバランスを検討しながら、より良いケアの実践に向けて取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員に対して虐待に関する研修を行い、防止に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去、成年後見制度を利用されている利用者がおられた。成年後見制度について研修を行った。	内部研修や会議において理解を深め、関係者との連携も図っていた経験がある。入居時に権利擁護に関する制度について説明を行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際、ご家族に重要事項説明書、利用契約書等の説明を行い、ご理解を得ている。但し、利用者ご本人に、ご理解を得るのは困難である。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している。又、ご家族会を開催しご意見やご要望を頂いた。ご家族の来所の際にもご意見やご要望を聞いている。	全家族に届ける広報紙を毎月1回発行しており、事業所内の行事や様子を伝えている。敬老会等のイベントの後に、家族の集いを年2回行い、意見や要望を聞く機会を設けている。また、職員は日頃から利用者や家族との会話を大切に、声かけを行っている。家族からも、職員の声かけや挨拶に、好印象をもたれている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、サービス向上会議、職員全体会議を開催しており、職員の意見や提案を聞いて運営に反映させている。	毎月1回、サービス向上会議、職員全体会議を開催し、管理者は意見、要望等の聴取に努めている。職員が、主体的に課題解決に取り組もうとする姿勢がうかがえる。実際に人員や物品確保等の意見、提案があり、運営にできるかぎり反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働条件や職場の環境に配慮し、職員が働きやすい環境にするよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	ハローワークを通して職員の採用を行っており、求人票にも性別や年齢は不問と記されている。	正社員としての採用に力を入れ、人柄や向上心を重視し、性別や年齢等に関する制限は行っていない。責任のある介護、質の高いケアを実現させるため、外部研修にも参加しやすいよう配慮している。本人の意向を重視しながら職場内で十分に能力を活かせる職場環境づくりに努めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権尊重に関しては、グループホームの運営方針にも掲げており、職員間で周知している。	法人全体で、利用者の人権に関して重視しており、利用者に対する人権の尊重は、事業所の運営方針でもある。利用者一人一人の人間性を尊重し、それぞれが、その人らしい生活を営むことができるように努めている。利用者の人権に関しての業務マニュアルも作成しており、職員の教育に取り組んでいる。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修案内等を配布し研修を受ける機会を設けている。又、法人内でも随時研修を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	飯塚市地域密着型サービス協議会を通じて、他の事業所との交流を図っている。又、サービス協議会内に研修部会、研究部会、広報部会が発足している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者本人の訴え、要望には素早く対応している。又、訴えを待つのではなく、こちらから汲み取る努力をしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際、ご家族の要望は可能な限り取り入れる努力をしている。相談にも応じている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の際、ご家族と連絡を取り、ご本人がどのようなサービスを受けていたのか、どのようなサービスをして欲しいのかをお聞きして介護計画を作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ノーマライゼーションの理念を基に取り組んでいる。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご家族と綿密に連絡を取りながら、ご本人にあったサービスを提供出来る様に努めている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	その方の出身地の行事や祭りに積極的に参加出来る様に努めている。	センター方式の一部を活用し、利用者や家族からの情報の聞き取りを基に、利用者との日常での関わりの中から、利用者一人ひとりに対するこれまでの生活環境や人間関係を把握している。個別性を重視し、利用者の故郷の行事などにも参加できるよう支援している。月に1回は、積極的に地域の行事に参加出来るよう支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日、利用者全員が参加出来るレクリエーションを行い利用者が孤立をしない様に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人やご家族を当事業所の行事にお誘いしたり、法要に出席させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の一部を活用し、情報収集を行っている。又、個別処遇に力を入れている。	利用者が何を求めているか、利用者がよりよく暮らすための課題を探る為、家族や全職員の意見、気づきなどの情報を収集し、利用者の視点に立って考え計画に活かすようにしている。利用者の様々な暮らしの場面を個別に捉えながら、定期的にセンター方式の一部を活用し検討している。細やかなアセスメントの充実により、個別の機能訓練や余暇活動など日々のケアに活かしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の一部を活用し情報収集を行っている。又、ご家族にも聞いて情報を得ている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアを通じて、利用者一人ひとりの状態把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者、ケアマネジャーを中心にリアルタイムに対応した介護計画を立案し実施出来る様に努めている。又、ご本人、ご家族の参加する担当者会議を開催している。	利用者個々の日々のケース記録やバイタルチェックのファイルは見やすく整理され、利用者の今、目標としている言葉や気を付ける事が、色付の用紙に大きく書かれている。一目で個々の重要課題が分かり、職員の利用者に対するケアの方向性を示している。担当者会議には、利用者、家族も参加し、意見や要望を介護計画に反映出来るよう努めている。ケアカンファレンスを定期的に行い、現状の変化に対応するなど職員間で情報を共有、検討している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を具体的に記録する様に取り組んでいる。更に、記録の充実を図る様に努めたい。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の介護付有料老人ホームの機能訓練器具を使って機能訓練を実施している。又、法人全体でバックアップ出来る体制を取っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当事業所が、地域に浸透してきており、地域資源も活用出来る様になって来ている。更に活用出来る様に取り組むたい。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本、医療連携を締結している頼田病院の受診となるが、必要に応じてかかりつけ医の受診も行っている。	契約時にかかりつけ医について確認し、利用者及び家族の希望や状況に合わせて、適切な医療を受けられるように支援している。協力医療機関医師により、2週間に1回、訪問診療が実施されたり、看護師が、週1回、訪問し利用者の健康管理に努めている。かかりつけ医に受診する際にも、必要に応じて同行している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の介護付有料老人ホーム看護師の助言や協働があり適切な看護や往診、受診等が出来ている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携を締結している頼田病院は勿論の事、他の病院においても、綿密に連絡を取り合い、入退院の対応等において問題なく行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化(看取り)指針の見直しを行い、職員に研修を行った。医療連携を締結している 颯田病院の支援の下、看取りを経験している。	重度化・終末期に向けた方針について、契約時より説明を行い、意向を確認している。状況の変化に伴い家族と話し合いを行い、協力医療機関医師や看護師と連携を図りながら支援を行っている。実際に看取りの経験もあり、我が家のような生活の継続を念頭に置き、支援できるよう取り組んでいる。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員研修や消防署主催の救急救命講習を行った。更に強化して取り組む必要がある。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行っている。今後は地域との協力体制の強化や夜間対応訓練に力を入れる必要がある。	事業所は、あらゆる災害に備えて、スプリンクラー、火災通報装置、発電機設備等、必要な設備を整えている。あらかじめ、非常災害に関する具体的計画を作成している。年2回、利用者の参加も含め、職員により夜間も想定にした避難訓練が実施されている。	必要備蓄品やあらゆる災害を想定したマニュアルの整備等、避難訓練や運営推進会議等を通して、より具体的な地域防災体制の確立や、全職員への周知を再検討することで、更に充実を図ることが期待されます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応は概ね出来ている。一人ひとりの人格を尊重する事は当事業所の理念の一つである。この理念の基、更に接遇や言葉遣いの強化に取り組まなければならない。	利用者一人ひとりのこれまでのライフスタイルや価値観を尊重し、日々の業務優先ではなく、その時々希望や状況に応じた柔軟な対応に努めている。職員の資質向上を図る為、利用者のプライバシー保護に関するマニュアルを整備し研修を行っている。個人情報についても厚生労働省のガイドラインを遵守し情報の保護に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけてはいるが、充分汲み取れてはいない。なお一層取り組まなければならない。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を聞くように働きかけてはいるが、充分汲み取れてはいない。なお一層取り組まなければならない。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な限り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設の介護付有料老人ホーム厨房で職員が調理をしている。但し、利用者にはスープを注いで頂いたり、片付けをして頂いている。又、月に数回、利用者の方と朝食作りや夕食作り、おやつ作りを行っている。	スイカ割りやおやつ外食など季節に応じ、食を楽しむことができる機会がもてるよう支援に努めている。献立や調理方法についても個別ケアにつながるよう取り組んでいる。調理は、併設施設厨房で行っているが、朝食作りや夕食作りなど、利用者が可能な限り職員と一緒に調理する機会を設けている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人に応じた食事形態を提供している。水分チェックは毎日実施している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人に応じた口腔ケアを行っている。歯科医による口腔ケアの研修を開催した。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来ている。声掛けや誘導を行いトイレでの排泄をして頂いている。	チェック表を作成し、個別の排泄パターンの把握や、表情、仕草等、サインを見逃さないように心掛けている。チェック表の中に問題点や解決すべき課題等があれば書き込めるようになっており、職員間で迅速に対応している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師、看護師の指示の下に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	併設の介護付有料老人ホームと入浴設備が共用である事から入浴日は曜日を決めて週3回実施している。	ケアチェック表を作成し、個別のケアの内容やパターンを把握し、支援している。併設施設との共用である為、1日おきの入浴となるが、利用者の希望や状況、体調等に応じて、柔軟な対応に努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人個人に合わせて出来ている。個室という事もあり、概ね皆良眠されている事が多い。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、看護師の指示の下に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援の努力はしているがまだ向上の余地はある。徐々に実現出来る様に取り組んでいる。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望には対応出来てはいないが、個別に計画を企て、ご本人の希望に合った外出を行っている。	利用者の希望や体調に合わせて、可能な限り利用者一人ひとりにそった外出支援を心掛けている。また、事業所の広い敷地内にある中庭で外気浴が行われたり、近隣の散策など外出が日常的なものになるよう支援している。家族や地域の協力を得て、個別行事や外食にもでかけており、積極的に外出できる機会を作っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来ていない。当事業所側で利用者一人ひとりの金銭管理を行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望や要望があれば対応出来る。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	配慮、工夫している。居室の整理整頓に努めている。	ゆとりある廊下からバリアフリーでストレスなく中庭に出ることができ、外気浴やガーデニング等、利用者の憩いの場となっている。玄関入口付近の花壇は、いつも整備され、四季折々の草花は、訪れる利用者の家族から好評だ。また、清潔な環境維持や感染予防に関しても重視し、管理に努めている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られたスペースではあるが、出来るだけ自由に過ごして頂ける様にしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は個人個人のお好みに合わせて自由に使用して頂いている。	居室の入り口に利用者の過去詠まれた俳句の作品や思い出のある写真、調度品等が飾られ、利用者一人ひとりの個性があふれ、利用者にとって居心地の良い空間になるよう工夫されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーとなっており、テーブルや椅子等の配置にも配慮し安全な環境づくりに努めている。		